

息子に銃持たす覚悟あるか

農業

(和歌山県 72)

の骨頂です。

安保関連法案に賛成する諸君。自分の息子たちに銃を持たせよ。少なくともその覚悟があるのか。他人を、自衛隊員を、当てにしているのではないか。それは虫が良すぎぬ。すまぬ。自衛隊の諸君。今度の海外派遣は身が危ないと思ったら即刻除隊しなさい。死んでは何にもなりません。自分のひとつだけの命、時の政権の犠牲になりなされるな。どんなに恭しく奉られようとも、何にもなりません。名譽なんて思つのは愚

米國はいつも地球のどこかで戦争をしているような國です。そんな國と一緒に戦争をするなんてナジセンス。やがては罪のない子どもや女性を殺すことになり、日本の子どもや女性たちが殺されることにならざるでしよう。無限の憎悪が生まれ、やがてテロが日本中を起さるでしよう。そしてその時、安倍晋三首相は言うのだからか。「國民の命と財産を守るため仕方なかった。國民のみなさん、理解して欲しい」。そんならないように祈っている。

60年安保 デモに行った亡父

会社員

(兵庫県 59)

自民党が4月末に発表した改憲PR漫画の中で、92歳の千造さんが「GHQが与えた憲法のままではいつまで経っても日本は敗戦国なんじゃ」とつぶやく。18歳選挙権の導入を受け、若い層にも訴える戦略だろうが、本当に戦争体験者の言葉かと疑問に感じた。

私の父は生きていれば95歳。2度の召集を受け、終戦後に中国で捕虜となり、1946年に帰還した。しかし父から憲法への不満など聞いたことはない。むしろ60年安保の時、国会へ反対デモに行ったという。晩年は戦争の話をするようになり「はかなことをしたものの力」を込めていた。漫画といえは手塚治虫の自伝的作品「紙の誓」がある。灯火管制が解かれた終戦の夜、街明かりに「はくは生きのびたんだ」と喜ぶ場面は当時の人がどれだけ平和を望んでいたか分かる。憲法解釈を都合良く塗り替える安倍政権。今回も数

の力で安保関連法案を押し通し、日本を再び危険な方向に導こうとする。國民や憲法学者の意見に耳を貸さない首相の早期退陣と法案の廃案を強く求める。

対デモに行ったという。晩年は戦争の話をするようになり「はかなことをしたものの力」を込めていた。

漫画といえは手塚治虫の自伝的作品「紙の誓」がある。灯火管制が解かれた終戦の夜、街明かりに「はくは生きのびたんだ」と喜ぶ場面は当時の人がどれだけ平和を望んでいたか分かる。憲法解釈を都合良く塗り替える安倍政権。今回も数

の力で安保関連法案を押し通し、日本を再び危険な方向に導こうとする。國民や憲法学者の意見に耳を貸さない首相の早期退陣と法案の廃案を強く求める。

舞台に並ぶ遺体それが戦争

主婦

(兵庫県 81)

18歳で選挙権が与えられる時に入へ。アイドルが歌ったり踊ったりして楽しんでいる舞台に、もし死体が山積みになれたらどう思いますか。戦争とこののはそっくりなものなのです。

子どものころ、兵庫県姫路市の自宅の向かいに「山陽座」という芝居小屋がありました。裏口から入ってお芝居や曲芸などをのぞき見し、怒られたものです。ですが私が国民学校5年だった1945年6月22日、家から少し離れた川西航空機姫路製作所周辺が空襲に遭りました。口へ行った方の遺体

が次々と山陽座に運ばれ、舞台にたくさん並んだのをこの目で見て覚えていきます。7月3日の姫路空襲で私の家も山陽座も全焼。私の家族は無事でしたが、近所のお母さんのおぼった赤ちゃんに弾が当たり、赤ちゃんは亡くなったと聞きました。日本が海外で武力行使できるようにする安保関連法案が衆院で自民・公明両党により強行可決されました。戦争とこののは恐ろしくて馬鹿げたことです。若い方は選挙権を得る来夏の参院選で、日本の将来を、世界の平和をよく考えて投票に臨んで下さい。戦争は絶対のため。心からお願ひします。

時間かけて徹底的に審議を

中学生

(東京都 14)

新たな安保関連法案が、衆院本会議で可決され参院に送られた。安倍政権は何としても今の国会で成立させることを目指しているという。

僕は集団的自衛権について詳しく知っているわけではない。けれども、安倍政権がなぜ安保関連法案の成立を、これほどまでに急ぐのか疑問に思う。

安倍晋三首相は、国会で「時期が来れば採決をすることが民主主義の基本ではないか」「時が来れば決め

るときは決めて頂きたい」と答弁した。しかし安保法制は日本の未来を大きく左右するものだと思う。それを1年や2年で成立させるのは急ぎ過ぎだし、急いで成立させてはほしくない。

新たな安保法制が成立して施行されたら、自衛隊が戦地に向かわなければならぬかもしれない。関連法案は憲法違反だという指摘もたくさん出ている。

だから、このような法案は最低5年程度かけて徹底的に審議して、本当に必要なものか、そうでないかを確かめるべきだと僕は思う。

強行採決 若者よ忘れないうで

主婦

(徳島県 52)

何度似たような光景を見せたら気が済むのだろう。またも安倍政権が強行採決した。第1次政権での教育基本法改正や2年前の特定秘密保護法、そして今回の安保関連法案。野党議員が委員長席を取り囲み反対を叫ぶ中、おそろく委員長の声など聞いさえもしないのに合図で起立した自民・公明議員はロボットのようだ。テレビが映した光景は、権力者が数に物を言わせて勝ち誇った場面だ。私はこの光景を多くの人々にしっかりと記憶しておいてほし

いと願う。特に次の国政選挙で投票する若者には覚えておいてもらいたい。戦場に行くのは若者だ。そして法案反対に立ち上がった若い若者たちの姿は希望でもあるからだ。世論調査では法案反対が多数である。多くの有権者が、昨年の総選挙で選んだ人たちによって、望む方向と別のところへ連れて行かれようとしている。選挙制度に問題はあるが、現状では選挙結果がすべてだ。有権者は投票行為に責任がある。今の矛盾も有権者に責任がある。だからこの強行採決を忘れないでほしい。

広がる「反対」 国会に届かず

無職

(福井県 71)

地元「九条の会」の一員として、14日までの約3週間、「戦争法案絶対反対」のビラ2種類1万7千枚を市内ほぼ全域に配った。時に女性たちの井戸端会議に出くわし「このビラを読んでもたまたま」と声をかけると、「私も反対や。あんなのやめてほしいわ」と即座に反応があった。私が「集団的自衛権って難しくて……」と言った「他国の戦争に日本も加わるじゃないっ？」そんなことな

ながら、反対だと語ってくれた。法案に反対する運動に、多くの人が共感してくれていると確信した。しかし、こうした反対の広がりが国会に反映されないのが悔しい。議員たちは、どうやったなら私たちの声を聞いてくれるのか。国会の会期延長は戦後最長の95日間。与党は何としても成立させようとしているが、法案反対の世論を盛り上げる時間がまだ残されているともいえる。国民が法案への理解を深め、日本の将来に禍根を残すという声が高まった時、与党は取り下げてくれるのだろうか。「良識の府」の参院こそ、期待するのは的外れだろうか。